

お花の栽培シリーズ「コブシ」

2010年3月

弥生(やよい)・桜月(さくらづき)・花見月(はなみつき)・  
夢見月(ゆめみつき)・晩春(ばんしゅん)

●大地が本格的に活動しはじめる季節

日ごとに日ざしが強くなり、天気は周期的に変わりがちです。日本海側でも、雪の日は少なくなり、春の兆しが見え始めます。草花の待ちに待った春がやってきます。

庭木の作業

・落葉樹・常緑樹の植え替え

草花の作業

・1年草や宿根草は、地ごしらえをして中旬までには植付けを終わらせる。  
・夏咲き球根は、分球して植えつける。

今月の誕生花

アイリス・スイートピー・スマレ・フリージア

今月の花

コブシ

花言葉/友情、友愛、自然の愛

昔からこの花が咲くと田んぼ仕事が始まることから、「田打桜」ともいわれていました。  
また、春の神が宿るともいわれ、北国の春の訪れを告げる花としても有名です。しかし、春一番に代表されるような強い春風には弱く、咲いたかと思うとすぐに散ってしまうような、はかない花でもあります。



3月から4月ごろに、太くて筆のように見える穂先のようなつぼみがふくらみだし、青みを帯びた花が咲きます。その咲き始めのつぼみの形が、子供の握りコブシの形に似ているので、こんな名前がつけました。

この花が上向きに咲くと晴天、下向きに咲くと雨になるという俗説もあります。友達とのつきあいの素晴らしさを実感させてくれるような『友情』『友愛』などの花言葉を持つコブシ。白い花の純粹さが、疑うことを知らない友情の強さを予感させるのでしょうか。








原産地は日本、朝鮮半島。モクレン科モクレン属の落葉高木。丈は8m内外。開花時期は3～5月。最盛期は3～4月。花持ちは4～7日程度。葉の形状は、互生で長さ10cmくらい、若葉は有毛、托葉は膜質で早落性。花色は白色。英名コブシ・マグノリア (Kobusi magnolia) 学名 Mognolia kobus DC. 別名ヤマアララギ、コブシハジカミ、ヒメコブシ(シデコブシ)、ベエコブシ、オエコブシ(タムシバ)。

最近では、小さい種のシデコブシが人気です。日本全土の山地に自生する花木ですが、春先に葉に先立って大きなつぼみを割るように咲きだす純白の花が清浄で美しいため、観賞用に庭に植えられるようになりました。

# お花の栽培シリーズ

今月の花

ワスレナグサ

日当たり  日なた	水やり  乾燥を嫌う	気温  10～20℃	草丈  10～40cm	花色   
--	---	---	--	--



春に可憐な青い小花を咲かせます。花色を取り合わせて花壇いっぱい植えたり、チューリップやノースポールなどと組み合わせるなどして、楽しめます。また、ロックガーデンにしてもよいでしょう。比較的丈夫な花なので、手間がかかりません。日光を好むのでよく日に当ててやることと、乾燥しないように水やりを忘れなければよく生育します。ただし、根腐れを防ぐため、水のやりすぎにならないよう水はけのよい土で育てます。種まきは秋におこないます。発芽までに2週間ほどかかるので、用土を乾燥させないよう注意が必要。肥沃な土を好むので、植え付けるときには元肥をたっぷりと与えます。露地栽培の場合は、それ以降の追肥の必要はありません。鉢植えの場合は肥料を切らさないように、月に2～3回液肥を与えます。

## ●種まきからの育て方

箱か平鉢に…



### ワスレナグサの悲しい伝説

ワスレナグサには、たくさんの伝説がありますが、もっとも有名なのは、恋しい恋人たちの物語…。ドナウ河で、この花をつんでいた男が、足を滑らせてしまいました。男は、つんだ花を悪人に投げ渡し、「わたしを忘れないで!」と叫びながら、急流に流されてしまったといわれています。

## ●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
状況	花期													
置き場	屋外の日当たりのよい場所						屋外の日当たりのよい場所							
水やり	3~4日 1回	1~2日 1回		表土が乾いたら与える (1日1回) ※乾燥を嫌うので、用土の表面が乾いたらたっぷり与える				1~2日1回		3~4日1回				
肥料	元肥 ×××× 月に2~3回液肥を与える(露地栽培でほとんど必要はない)													
害虫														
作業	鉢上げ		植えつけ			種まき						霜よけ		